

4番 八重樫龍介です。

通告に基づきまして次の事項についてお尋ねします。

終息を迎えるどころか、県内においても新型コロナウイルスの感染が拡大し先が見えない状況下、中居町長をはじめ、職員一丸となり対策や対応に追われている日々と思われま
す。

さて、観光産業が盛んな本町への新型コロナウイルスの侵入は、官民一体となり阻止しなければなりません。いま一度、更なる感染症予防に徹するよう全町民に対し注意喚起をすべきと思いますが、町長の考えを伺います。

次に、このような状況下においても本町の将来を見据えた施策を展開していかなければなりません。今年度スタートした、「岩泉町未来づくりプラン」では、令和8年度までの基本構想に6つのプロジェクトがあり、その中に「持続可能な開発目標」SDGsが示されています。県内には、計画が国から認定され官民一体となり取り組んでいる自治体もあり

ます。

本町でも積極的にSDGsに取り組んでいかなければなりません。そこで、2点について伺います。

1点目は、先の議会全員協議会で示された「岩泉町地域薪資源利活用調査」についてであります。

国では、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする方針を表明しています。また、本町においてもこれに向けた取り組みとして、木質バイオマス資源を活用した新たな地域循環型社会を目指し、森林資源の調査を行ないます。

そこで、今回の木質バイオマス資源調査では、その調査範囲が明確に示されていません。針葉樹や製材所等も調査対象に含まれているのか。また、結果によっては木質バイオマス発電事業の可能性も視野に入れて調査を行っているのか伺います。

2点目は、龍泉洞温泉ホテルの付加価値を高める施策としてSDGsに対応したホテルにすることです。

私の考えは、現在ほとんどの宿泊施設で備えている、使い

捨てのプラスチック製歯ブラシ等を廃止し、環境に配慮したアメニティを売店で販売すること。資源管理や環境、労働に配慮した水産物の認証を取得した魚介類や無農薬の有機野菜等を使用した料理を提供すること。各部屋に、障がい児施設の児童生徒が描いた絵画を展示することなどです。

他の宿泊施設との差別化を図ることで、新たな客層の掘り起こしが期待できると思われませんが町長の見解を伺います。

また、ホテルの名称に「温泉」が付くのは、違和感が否めないと思われませんが町長の考えを伺います

以上で本席からの質問を終わります。

4番 八重樫龍介 議員の御質問にお答えします。

まず初めに、新型コロナウイルスの感染対策についてであります。町では、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、ホームページ、ぴーちゃんねつとなど、様々な広報媒体や出前講座を通じて、感染対策に努めてまいりました。

また、県内初の感染者が確認された7月と季節性インフルエンザ流行前の11月には、町民の皆様にもマスクの配布を行い、感染予防の周知徹底を図ったところでございます。

感染拡大を防止するうえでは、町民お一人おひとりの「感染対策に対する意識の高揚」と「新しい生活様式」の実践が重要であり、併せて、感染された方やその関係者への誹謗中傷の抑制を図ることも重要であると認識しております。

今後におきましても、自分の命はもとより、大切な人の命を守るため、様々な広報媒体を通じ、情報発信を行ってまいりますとともに、機を捉えた注意喚起を行い、より一層の感染対策に努めてまいりたいと考えております。

また、年末年始の帰省や旅行などにつきまして、町民の皆様にも分散化の協力を呼び掛けてまいりますので御理解を賜りたいと存じます。

次に、地域薪資源利活用調査についてですが、当該調査における木質バイオマス資源については、広葉樹のみならず、針葉樹の間伐等、森林整備により発生するものや、加工過程における端材などについても、調査対象に含めており、SDGsの概念を基本に取り組んでおります。

また、発電事業の可能性については、余剰熱を用いた小規模発電の可能性について調査すること

としております。

次に、龍泉洞温泉ホテルの付加価値を高めるための施策についてであります。SDGsへの取組は、今や時代の潮流となっておりますので、龍泉洞温泉ホテルのみならず、関係機関等と連携し、積極的に取り組んでいく必要があるものと認識しているところであります。

他の宿泊施設との差別化を図るための具体的な方策であります。議員御指摘のSDGsの概念も取り入れながら、地元産の農畜産物や水産物を活用した「地域の食」など、地域資源を活用した特色のある観光産業を推進することで、町内での雇用や収入を生み出し、持続可能な発展を遂げられるよう、宿泊事業者とも連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。

また、龍泉洞温泉ホテルの名称についてであり

ますが、開業当時は冷泉を活用していたところ
ありますが、源水の枯渇に伴って、現在は、活性
石を活用してお湯を沸かす人工温泉となっており
ますので、現時点においては、名称の変更等につ
きましては考えておりませんので御理解願います。

以上で答弁を終わります。